

論点① 国民健康保険制度の安定運営を

『平成29年度広域化を目指し
累積赤字2億1千万円の解消へ』

国民健康保険制度は昭和36年に制度化され半世紀になる。国民が等しく医療を受ける制度として重要な役割を担い、長寿国になった要因でもある。今後も住民の命と健康を守るために安定した持続可能な運営をしていかなければならない。しかし、医療費は年々増加し歳入の伸びはなかなか期待できず、国保会計の台所事情は火の車である。今後、収納率向上、予防医療の推進、一般会計からの繰入、県単位の広域化や国管理の一元化を目指すべきだ。



論点② ICT先進自治体の推進を

『ICT寺子屋で市民の利活用能力向上へ』
『行政手続きのワンストップ化を』
『F&B良品武雄3年で10億円目指す』

武雄市の情報戦略が加速度的に進んでいるが、市民のICTに対するリテラシー(利活用能力)の向上が重要である。実務上の知識や技能を習得できるICT寺子屋を継続して取り組むべきだ。

市民の事務申請手続きで、部門間を行ったり来たりしなければいけないといった指摘がある。ICT化で申請手続きの簡素化・効率化を目指すべきだ。



論点③ 駅前駐輪場の自転車盗難対策を

『武雄温泉駅に防犯カメラ2月設置へ』

近年、自転車にまつわる事件・事故が増加傾向にある。特に駅前駐輪場での自転車盗難が多く発生、警察におかれても事件処理に多くの時間を費やされている状況である。警察や防犯協会のパトロールだけでは限界があり、治安維持・犯罪防止のため24時間監視が可能な機械的対策をすべきだ。



論点④ 防火水槽整備のスピードアップを

『新年度より3年間で15基整備へ』

防火水槽の設置要望が各行政区からよせられているが、ここ3年間をみると1年間に1基づつという整備状況である。現在14基の要望が残っている。市民の生命と財産を守る防火水槽については合併特例債を活用し集中整備するべきだ。

また、いざ火災の時に機能しない防火用水では何にもならない。水質管理も基準を設け定期的な入れ替えをすべきだ。



今年も、吉川はあなたの声を樋渡市政に反映させます。お気軽にご相談ください!